

●●● 2021年7月～9月期 栃木県中小企業景況調査(169回) ●●●

業況

【栃木県DI指数天気図】

今期(県内全体)の業況






 **DI値**
-34.1
※全国 -28.4

























県内全体の業況(DI値)は、前期(4-6月期)より3.7ポイント悪化の-34.1ポイントとなった。特に小売業は-54.9ポイントと大幅に悪化したが、製造業においては前期から4.2ポイント悪化ながらも売上額、採算、資金繰りの3項目において大幅な改善が見られた。サービス業は前期から4.1ポイント、建設業においては11.9ポイント改善した。

来期は、製造業、小売業、サービス業で改善を見込む一方、改善傾向にあった建設業は再び悪化に転じ、小売業は改善傾向ながら依然厳しい値が続くと見込まれる。県内全体の業況としては11.8ポイントの回復となる見込みである。

全国と比較すると今期は5.7ポイント低いものの、来期は全国と同水準になる見込みである。

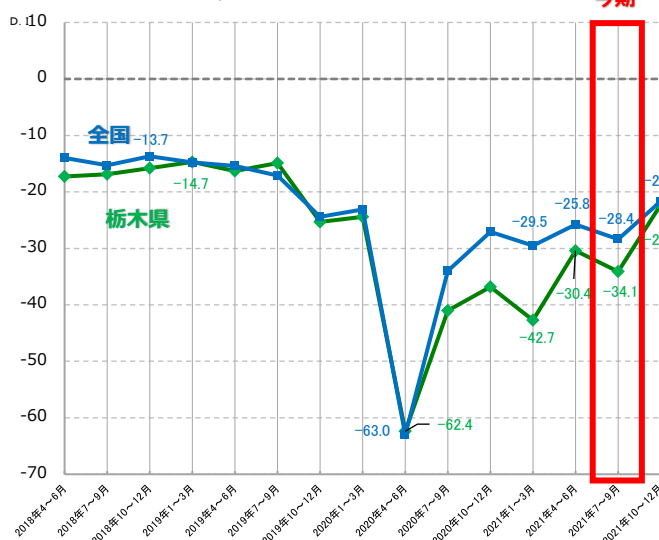
～天気図の指標～

現状	良い	やや良い	やや悪い	悪い	とても悪い
天気図					
DI値	15.1～	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～

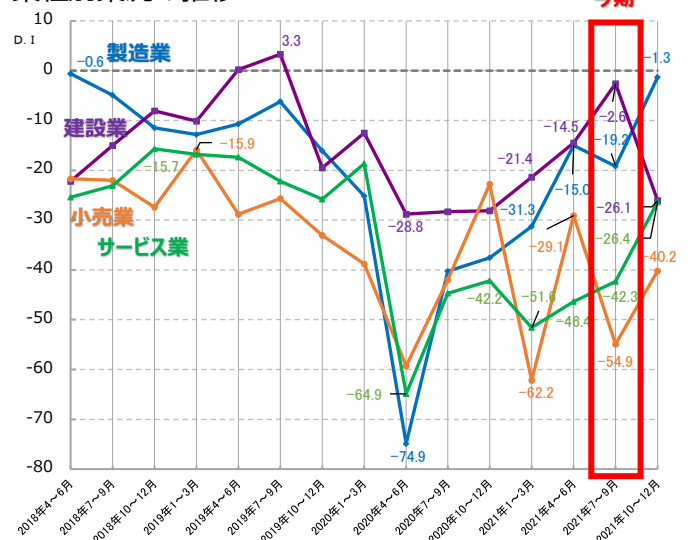
業種	項目	今期(全体)	売上額	仕入単価※	採算	資金繰り	来期予想(全体)
製造業							
	DI値	-19.2	-3.3	70.4	-16.7	-6.7	-1.3 (↗)
業況：前期から-4.2ポイント悪化も、来期は全体で+17.9ポイント改善の見込み							
建設業							
	DI値	-2.6	-25.0	70.0	-30.0	-20.0	-26.1 (↓)
業況：前期から+11.9ポイント改善も来期は-23.5ポイント悪化の見込みで不安定な状態続く							
小売業							
	DI値	-54.9	-50.0	20.0	-57.5	-35.0	-40.2 (↗)
業況：前期から大幅悪化も来期は+14.7ポイントの大幅改善見込み							
サービス業							
	DI値	-42.3	-43.3	-33.9	-45.0	-33.9	-26.4 (↗)
業況：前期から+4.1ポイント改善、来期は+15.9ポイント大幅改善の見込み							

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります

全国と栃木県の業況の推移

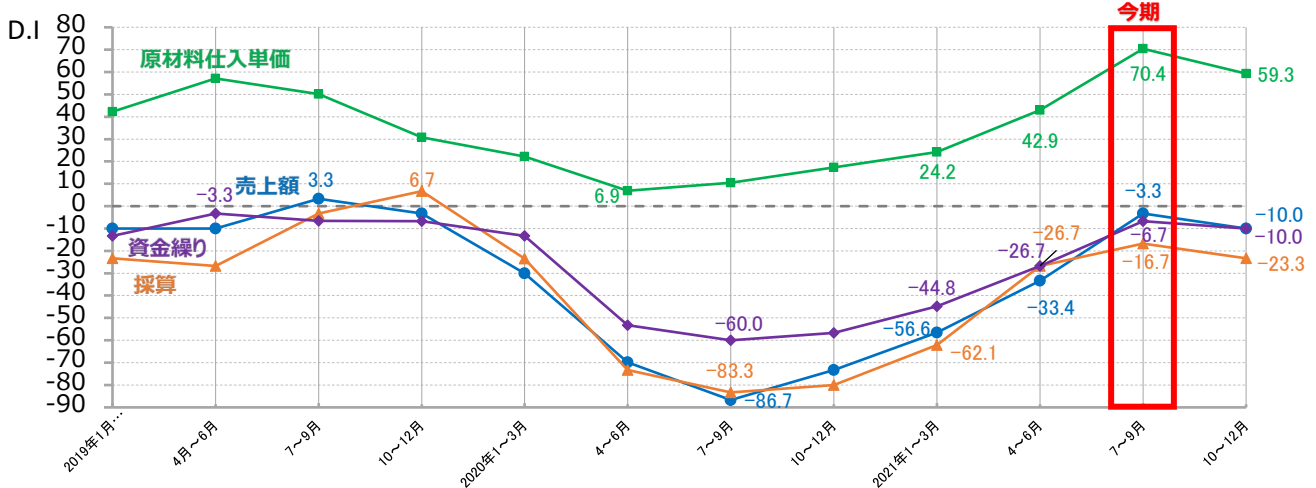


業種別業況の推移



製造業

「売上額が大幅改善も、来期は悪化見込み」



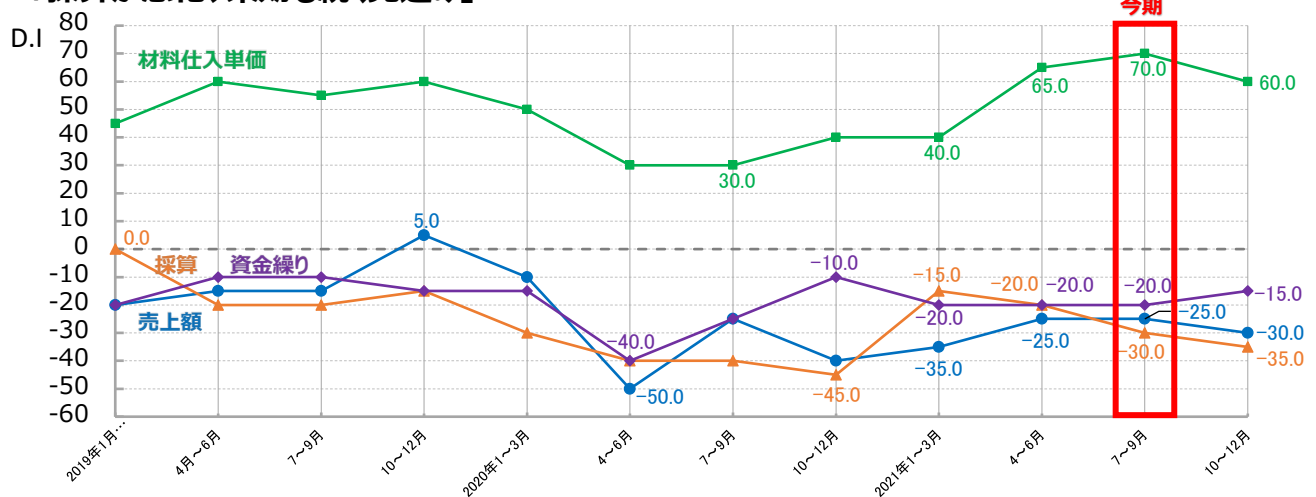
「売上額」の30.1ポイント(-33.4→3.3)を筆頭に、「資金繰り」は20.0ポイント(-26.7→-6.7)、「採算」は10.0ポイント(-26.7→-16.7)と3項目において大幅に改善した。来期は2020年7-9月期から回復傾向にあった「売上額」は-6.7ポイント(-3.3→-10.0)、「資金繰り」は-3.3ポイント(-6.7→-10.0)、「採算」は-6.6ポイント(-16.7→-23.3)の悪化が見込まれる。

「原材料仕入単価」は27.5ポイント(42.9→70.4)と上昇傾向が続いているが、来期においては-11.1ポイント(70.4→59.3)下落する見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 需要の停滞 (26.7%) 第2位： 原材料価格の上昇 (17.3%)
 第3位： 生産設備の不足・老朽化 (13.3%) 第4位： 製品ニーズの変化への対応 (12.0%)

建設業

「採算が悪化、来期も続く見込み」



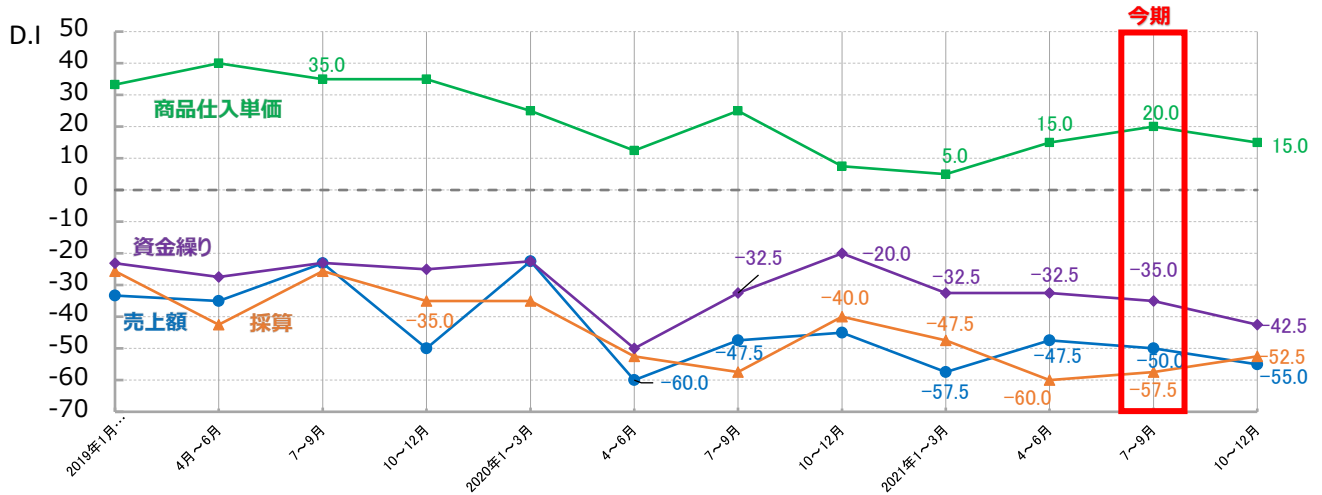
「採算」は-10.0ポイント(-20.0→-30.0)と2期連続の悪化となった。前期(4-6月期)に大幅改善した「完成工事額(売上額)」は横ばい、「資金繰り」も1-3月期より3期連続の横ばいとなっており、停滞気味である。来期は「完成工事額(売上額)」、「採算」で-5.0ポイント(-25.0→-30.0、-30.0→-35.0)の悪化が見込まれ停滞が続くが、「資金繰り」は5.0ポイント(-20.0→-15.0)と小幅ながらも回復する見込みである。

「材料仕入単価」は5.0ポイント(65.0→70.0)と上昇したが、来期は-10.0ポイント(70.0→60.0)下落する見込みである。

- 【経営上の問題点】 第1位： 材料価格の上昇 (24.2%) 第2位： 従業員の確保難(21.2%)
 第3位： 熟練技術者の確保難 (9.1%) 第4位： 官公需要の停滞 (9.1%)

小売業

「売上額、資金繰りは悪化続く、採算は来期も改善見込み」



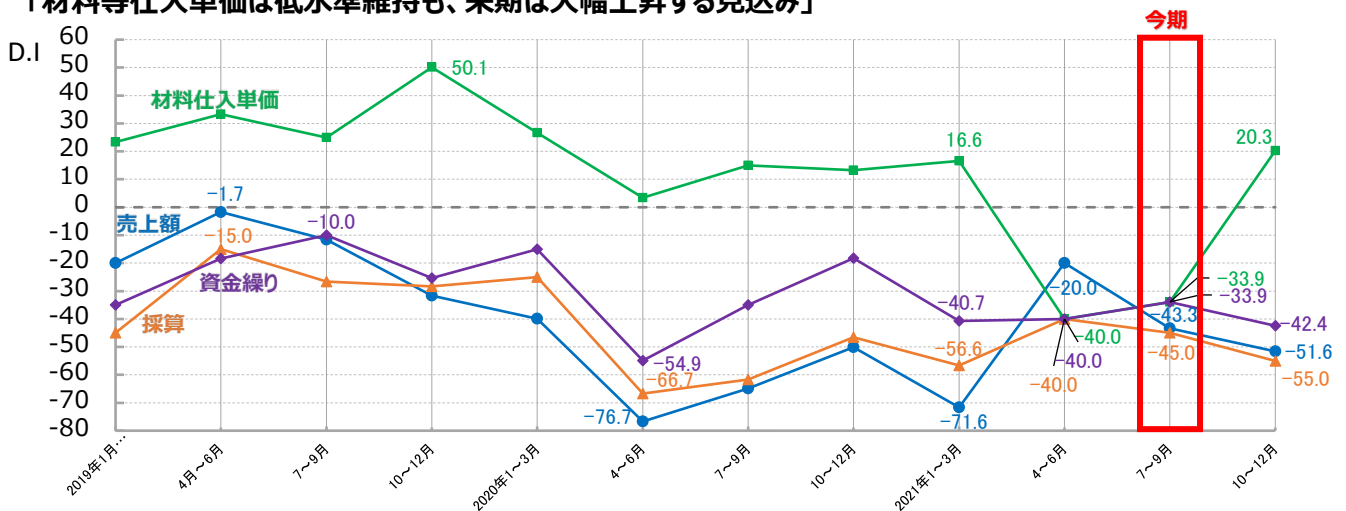
「採算」は2.5ポイント（-60.0→-57.5）と小幅ながら改善したものの、「売上額」は-2.5ポイント（-47.5→-50.0）、「資金繰り」も-2.5ポイント（-32.5→-35.0）の悪化となった。来期は「売上額」が-5.0ポイント（-50.0→-55.0）、「資金繰り」が-7.5ポイント（-35.0→-42.5）と悪化する見込みであるが、「採算」は5.0ポイントの改善が見込まれ、回復傾向が続く。

「商品仕入単価」は5.0ポイント（15.0→20.0）上昇したが、来期は-5.0ポイント（20.0→15.0）の下落が見込まれる。

- 【経営上の問題点】
- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 第1位： 需要の停滞（24.6%） | 第2位： 消費者ニーズの変化への対応（21.3%） |
| 第3位： 仕入単価の上昇（11.5%） | 第4位： 大・中型店の進出による競争の激化（6.6%） |

サービス業

「材料等仕入単価は低水準維持も、来期は大幅上昇する見込み」



「材料等仕入単価」は最低値を記録した前期から6.1ポイント（-40.0→-33.9）上昇したものの低水準を維持したが、来期は54.2ポイント（-33.9→20.3）と大幅に上昇し、2021年（1-3月期）と同値程度に悪化する見込みである。

「売上額」は大幅回復した前期（4-6月期）から一転し、-23.3ポイント（-20.0→-43.3）と大幅に悪化、「採算」も-5.0ポイント（-40.0→-45.0）の悪化となったものの、「資金繰り」は6.1ポイント（-40.0→-33.9）の改善となった。来期は、「売上額」は-8.3ポイント（-43.3→-51.6）、「採算」は-10.0ポイント（-45.0→-55.0）、「資金繰り」は-8.5ポイント（-33.9→-42.4）悪化する見込みであり厳しい状態が続く。

- 【経営上の問題点】
- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 第1位： 需要の停滞（29.4%） | 第2位： 利用者ニーズの変化への対応（16.5%） |
| 第3位： 利用料金の低下・上昇難（7.1%） | 第4位： 従業員の確保難（7.1%） |

調査要領

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目(売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り)から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区（栃木県商工会地区）

粟野・足尾町・茂木町・石橋・桑絹
大平町・岩舟町・高根沢町・那須烏山・足利市坂西

○調査時点

2021年9月1日

○調査対象期間

2021年7月～9月期の実績及び、2021年10月～12月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

○回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比(%)
製造業	30	20.0%
建設業	20	13.3%
小売業	40	26.7%
サービス業	60	40.0%
合計	150	100.0%

※D I 指数とは

報告書に登場するD I 値とは、デフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がりを示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。



編集：栃木県商工会連合会 経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央3丁目1番4号

次の100年も
ここに商工会

TEL 028-637-3731・FAX 028-637-2875